市民向けアドバンスケアプランニング普及啓発プログラム

大河内 章三 氏

認知症に優しいまちづくり実行委員会　代表

1.活動背景

近年の高齢多死社会の進行に伴う在宅や施設における療養や看取りの需要の増大を背景に、地域包括ケアシステムの構築が進められていることを踏まえ、国はACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス）の概念を盛り込んだ「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を平成30年に改訂し公開しました。ACPは意思決定におけるプロセスの支援を行う為に実施されるものであり、その為にはそれに関わる多職種における専門職の理解と一般市民への啓発が欠かせません。

そこで私たちは、従来の一方的な講演や講義形式ではなく、「もしバナカード（TM）」を活用し、体験とその中から生まれた感情の揺れ動きをキャッチしながらACPを疑似体験的に伝えていく事で、ACPへの理解普及を行っていく活動を行いたいと考えております。

2.活動の実施方法

①医療・介護従事者を中心として、国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部　西川満則先生によるACPファシリテーター養成講座を受講いただく。

②一般社団法人Institute of Advance Care Planningの実施する「もしバナゲーム」研修会を受講し、ACPの導入やもしバナゲームとACPの違いを理解し体系的に伝える技術を磨くと共に、意思決定についての法的解釈の理解を深める。

③上記研修を受講後に、毎月開催されている地域の高齢者サロンへ出向き、もしバナゲームをきっかけとしたACPの理解・普及啓発活動を各自月1回以上のペースで実施して頂く。

④それぞれの活動結果を共有し、その結果をまとめる。

⑤活動成果報告を実施し、より一般に向けた取り組みの継続について報告会などを開催し、啓発を行っていく。

3.活動意義

専門職の難解な言葉をそのまま一般向けに伝えるだけでは普及促進に繋がる事が困難です。

ただ伝えて終りではなく、「もしバナゲーム」というカードゲームを使用し、一般市民でもとっつきやすい形式で体験が行えるようにする事と、その体験から考えられる心の揺らぎに対して、ACPの説明を行っていく事で、市民に対するACPの理解がより促進され、実際のACP活動へ繋げ促進していく事に繋がります。

認知症に優しいまちづくり実行委員会では、実際に「もしバナゲーム」を取り扱う「一般社団法人Institute of Advance Care Planning」の認定する「もしバナマイスター」の講座を受講し、国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部　西川満則先生が開催しているACPファシリテーター養成講座を受講した人間が「もしバナゲーム」を開催する事で、名古屋市中区の高齢者サロンに参加する100名の高齢者より「とても分かりやすく、家に帰ってさっそく話してみようと思った。」といった意見を沢山いただきました。

どちらか一方ではなく、ACP全体の理解と、導入ツールとしての「もしバナカード」の理解をすることで相乗効果が生まれると考えております。

今回の取り組みは参加者が無料で参加できる事で一人でも多くの有志の方がACP普及活動の一翼となる人材となる事が期待できます。